

第?回策定委員会主題（議論テーマ）

1 橋本市の都市・街についての都市計画将来ビジョン

●現状

都市・街に「都市的な要素」（都市であることの良さ、人・経済活動を引きつけ、育てる力、モノを生み出す力）が著しく乏しい。

人・経済活動の相互作用が低調で、文化的結合が低下し、乏しい。

結果、建物等の更新が乏しく、街並みに、人・経済活動を引きつける「生き生き感」がない。そして、「文化の匂い」ない都市、「便利な田舎」との市民実感が寄せられる。

人の生き生き感、人・経済活動を育て、文化的結合を創る「装置」としての市・街となっていない。都市・街は、単なる建物等の構造物の集積ではない。「育て、創る装置」である。との認識不足。

結果、マイナスの波及効果として資産価値の劣化、さらに、マイナスの波及効果として市の資産税収入の低下を来たしている。

●課題

都市・街についての都市計画将来ビジョンがない（ビジョンが語られ、合意に向けての動き著しく乏しい）。

最も、重要であり、緊急性のあるのは、都市計画将来ビジョンをつくり、現状の課題の改善に向かう、人・経済活動の相互作用、文化的結合を育てる。

2 中心街となるメインストリートの形成

●現状

橋本市の長期総合計画では橋本市役所周辺の地域を都市拠点（シビックゾーン）として位置付けている。

南海電鉄林間田園都市駅、御幸辻駅、橋本駅、JR 高野口駅、隅田駅、そして京奈和自動車道の各 IC を地域拠点として位置付けている。

●課題

社会的、経済的進展により、都市の特性により「核」の内容（意味合い、位置づけ）が変化している。「核」の内容についての議論が無いに等しい。

3 市民の豊かな生活を支え、実現する都市・街の物的環境

●現状

市民生活、特に高齢者、中高生など若者の豊かな生活（生き生き感ある社会的、自然的環境からの豊かな刺激、知的刺激、体動かしを誘発する環境的刺激）

情報通信社会、デジタル社会の急速な進展、デリバリー活用ビジネスの進展などによる生活づくり

交通環境では、公共交通として、民間の鉄道会社2社、バス会社1社が運行しており、空白地域をコミュニティバスとデマンドタクシーがカバーしている。

●課題

市民の豊かな生活を支え、実現する都市・街の物的環境づくりとして、人的、知的刺激を得て、集い、憩える場づくり（中心街、図書館、小公園、陽当たり良い散歩道、ベンチなど）

買い物・病院など生活重要拠点が市全域に拡散しており、効率的な公共交通網の形成が困難となっている。

4 土地利用について

●現状

＜旧橋本市域＞

北部に昭和～平成初期に造成された住宅団地が集中しており、中～南部においては旧来の住宅地と農地山林が混在しながら広がっている。

北東部地域については、工業団地の造成が進み、企業誘致によって企業や物流倉庫等の集積が進んでいる。

＜高野口地域＞

古くからの個人事業者が多く、住宅と事業所が混在して立地している。

＜市内全域＞

管理できなくなった空地や耕作放棄地でのミニ開発や太陽光発電への転用が進んでいる。

●課題

地域ごと、エリアごとに大まかな土地利用の設定はされているものの、明確な方向性に乏しく各地域に対する適切な取り組みにつながない